

平成18年度 学校自己評価シート（埼玉県立熊谷商業高等学校）

| | |
|-------------------|--|
| 目指す学校像 (ミッション) | 学習意欲と自立心・自制心を高め、行動力・実践力のある生徒を育成する |
| 本年度の 重点目標 | 1. 向上心を高め、基礎学力・技能・体力をさらに培い、実践力のある生徒の育成 2. 基本的な生活習慣の確立と、達成感・成就感を身につけた生徒の育成 3. 三年間を通じた進路指導計画の確立 4. 情報発信に努め、保護者・地域・中学校等の理解を深めた開かれた学校づくりの推進 |

| 年 度 当 初 | | | | | 最 終 評 価 (2 月) | | |
|---------|----------------|--|--|---|--|-----|--|
| 番号 | 評価項目 | 現 状 | 具体的な方策 | 評 価 指 標 | 経過・達成状況等 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 1 | 授業改善への 取り組み | 確かな基礎学力の定着に努めると共に、専門的な知識・技能や検定資格を習得させ、自己の進路実現に向けて取り組める生徒の育成。また、このことにより、生徒一人一人が自身を「かけがえのない存在」と意識でき、存在感や充実感をえられるような学校づくりを目指している。 | 1 分かり易い授業の実施 2 家庭学習の習慣化 3 少人数授業や習熟度別授業の充実 4 シラバスの活用しての生徒自己評価の実施 5 成績評価の再検討や見直し 6 成績が振るわない生徒への学期毎の対応 | 1 方策に関する研修会を行い、職員間の連携をとることが出来たか。 2 興味・関心を持って授業に取り組める生徒が昨年度より増えたか。 3 方策4について説明し、実施することが出来たか。 4 方策6について教科担当と担任の情報交換を行い、状況に対応した指導や保護者との連携を行うことが出来たか。 | 1 生徒対象のアンケート調査の結果、「分かり易い授業の実施」は概ね適切であるという評価であったが、「家庭学習の習慣化」については検討課題が多い回答状況であった。 2 成績、評価の職員研修会を実施して、内規の確認や意見交換を行い共通理解を深めた。 3 学年末の成績不振者を減らすように、1.2 学期末に行う指導を昨年度より綿密に行った。追考査の結果から見て、各学年とも成果が現れている。 | B | 家庭での学習習慣が身に付いていない生徒が多い。学習意欲を喚起するためにも、家庭学習を充実させる方策を検討する。具体的には、各教科目の年間計画や目標をより明確化して生徒に知らせることや、保護者への呼びかけや連携もして行く。 |
| 2 | 生徒指導への 取り組み | 基本的な生活習慣の確立を図るため定期的・継続的に指導すると共に、熊商生としての自覚と誇りを持たせ、高校生として責任の持てる言動を身につけさせることを目指している。 | 1 基本的な生活習慣の育成 2 責任ある行動の育成 3 安全教育、禁煙教育、薬物乱用防止教育の推進 4 教育相談の充実 | 1 時間を守り、きちんとした服装・頭髪で生活を送っているか。また、すすんであいさつができたか。 2 生徒心得を守っているか。 3 自他の安全がはかれるか。喫煙防止・薬物乱用防止に努めているか。 4 不安や悩みを解消し、よりよい人格形成が図られているか。また、担任・学年等との連携が図られているか。 | 1 各学期、各学年における整容指導の結果、概ね服装、頭髪についてはきちんとしている。 2 懲戒以上の指導を受けた者は前年度より減った。 3 禁煙教育、薬物乱用防止講演会を開催し規範意識を高めた。 4 生徒相談室の活用、教育相談の充実が図られた。 | B | 1 今後も教員間のより一層共通理解、指導が必要 2 今後も継続して指導してゆきたい。 3 今後はホームルーム等を活用し、一層の徹底を図る。 4 今後も担任、学年等の一層の連携を図る。 |
| 3 | 進路実現への 取り組み | 進路実現のための検定資格取得と基礎学力の定着、「就職・進学」希望者へのガイダンス機能の取り組みを目指すために、三年間を通じた指導計画の確立を目指している。 | 1 インターンシップの充実 2 進路指導体制の確立 3 進路ガイダンスの充実 4 就職希望者の面接指導の充実 5 外部講師の活用 | 1 インターンシップ後の生徒の進路意識はどうか。 2 ・3 進路指導部と学年との連携はとれているか。 4 面接指導に生徒は積極的に参加しているか。 5 外部講師を活用して生徒は積極的に参加しているか。 | 1 実施後に生徒の意識は高まっている。 2 , 3 連携は概ねとれている。 4 進路部、学年、PTA等の指導に参加し、成果がみられる。 5 生徒は積極的に参加した。 | B | 今年度、1, 2年の学年ごとに立てた進路指導計画を単年ではなく継続して、取り組ませ、1年次より進路意識を向上させ、希望の進路実現に努める。 |

達成度 A : 十分達成 (1 0 0 %) B : 概ね達成 (8 0 % 程度) C : 変化の兆し (5 0 % 前後) D : まだ不十分 (3 0 % 前後) E : 目標、方策の見直し (2 0 % 以下)

平成18年度 学校自己評価シート（埼玉県立熊谷商業高等学校）

| | |
|-------------------|--|
| 目指す学校像 (ミッション) | 学習意欲と自立心・自制心を高め、行動力・実践力のある生徒を育成する |
| 本年度の 重点目標 | 1. 向上心を高め、基礎学力・技能・体力をさらに培い、実践力のある生徒の育成 2. 基本的な生活習慣の確立と、達成感・成就感を身につけた生徒の育成 3. 三年間を通じた進路指導計画の確立 4. 情報発信に努め、地域・中学校等の理解を深めた開かれた学校づくりの推進 |

| 年 度 当 初 | | | | | 最 終 評 価 (2 月) | | |
|---------|--------------|--|---|---|--|-----|---|
| 番号 | 評価項目 | 現 状 | 具体的な方策 | 評 価 指 標 | 経過・達成状況等 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 4 | 開かれた学校づくりの推進 | 校内活動の広報をさらに推進すると共に、地域・中学校等との連携をさらに深め、本校への理解を一層深めてもらための情報発信を目指している。 | 1 広報誌等の配布箇所の拡大 2 地域貢献への参加活動 3 中学校訪問と交流及び中学校教諭との連携 | 1 地域との連携を図るために中学校・市役所・公民館等に配布することが出来たか。 2 地元が企画した行事に参加することが出来たか。 3 中学校側との連携がとれたか。 | 1, 2 地域貢献事業でガイドブックを作成し、全国産業教育フェア埼玉大会及び地元市役所等に配布する事ができた。 3 入試事務連絡等で訪問はできたが、教員同士の交流はできなかった。 | B | 今後は、地域貢献事業に積極的に参加し、地元PRと共に本校の活動内容のPRに努める。 また、中学校側との交流・連携に工夫をし推進できるよう努める。 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

達成度 A : 十分達成 (1 0 0 %)
 B : 概ね達成 (8 0 % 程度)
 C : 変化の兆し (5 0 % 前後)
 D : まだ不十分 (3 0 % 前後)
 E : 目標、方策の見直し (2 0 % 以下)